

第2回横須賀市立小中学校適正配置審議会 会議録

1 日 時 令和4年（2022年）12月26日（月）16：00～17：30

2 場 所 市役所3階 301会議室

3 出席委員 委員 出石 稔
委員 上田 滋
委員 黒川 理美
委員 櫻井 聡
委員 外川 翔大
委員 宮田 丈乃

4 事務局 教育総務部 部長 古谷 久乃
学校教育部 部長 米持 正伸
教職員課 課長 平石 拓
学校管理課 課長 二見 裕
教育指導課 課長 川上 誠
支援教育課 課長 小谷 亜弓
教育政策課 課長 飯田 達也
教育政策課 担当者 武田 裕史

5 傍聴者 5名（その他、関東学院大学の学生5名の出席あり。）

6 議事内容

○飯田教育政策課長（事務局）

皆さま、こんにちは。定刻となりましたので、令和4年度第2回横須賀市立小中学校適正配置審議会を始めます。

開催する前に、傍聴及び会議録について確認します。横須賀市立小中学校適正配置審議会は、「横須賀市立小中学校適正配置審議会の傍聴に関する実施要領」に基づいて、傍聴を認めています。また、会議録については公開します。会議録作成のために、録音します。

委員の皆さま、よろしいでしょうか。

《 委員から異議なしの声 》

それでは、本日の議事を進める準備が整いましたので、改めて令和4年度第1回横須賀市立小中学校適正配置審議会を開催します。

「横須賀市立小中学校適正配置審議会条例」第4条第2項の規定により、開催に当たり半数以上の委員の出席が必要となりますが、本日は、委員7名中6名が出席されていますので、横須賀市立小中学校適正配置審議会は成立しています。

それでは、これより進行を出石委員長にお願いして、議事を進めていただきます。出石委員長、よろしくお願いします。

○出石委員長

皆さま、こんにちは。

前回の審議会から7か月が経過し、この間に田浦地域と走水・馬堀地域において地域別小中学校教育環境整備検討協議会（以下「協議会」）が3回開催されています。今回は、その中で議論が重ねられてきたものを踏まえた審議会となりますので、よろしくお願いします。

それでは、議事（1）横須賀市及び検討地域・対象校の現状と課題について、事務局から説明をお願いします。

○飯田教育政策課長（事務局）

《 資料1に基づき事務局から説明 》

○出石委員長

ただいまの説明内容は、前回の審議会内容の復習という形になりますが、ご質問やご意見はありますか。

○外川委員

走水小学校において、神奈川県による教員の加配により複式学級を回避している状態であるとなると、級外の先生の人数が少なくなっていると思いますが、その実態について教えてください。

○平石教職員課長（事務局）

走水小学校については、複式学級の解消に向けて教員が加配されていますので、現在は各学年ともに単学級で維持しているところです。

級外については、定数的には他の学校と同じ対応になります。複式学級をしているから特に走水小学校の級外が少ないということではなく、定数でやっているのです、その点は問題ないと思います。

○出石委員長

田浦地域に関連し、港が丘1丁目・2丁目において通学区域が分かれていることと、長浦小学校のある自治会が逸見連合町内会にあること等で生じる具体的な課題はありますか。

○飯田教育政策課長（事務局）

健民運動会が例として挙げられます。

こうした行事を連合町内会が主催している中で、同じ連合町内会内でも通学する学校が異なる現状があり、協議会の場でも、このような形で分かれてしまっているのではないかという意見を頂いています。

○上田委員

連合町内会と通学区域との兼ね合いについて検討していかなければいけません。が、そもそも、山を切り開いて団地を開発する時点でこのような問題はあったはずであり、その際にもう少し細かく通学区域の検討とその連合町内会との関係の構築をしておけば、ここまでには至らなかったと思います。

今この場でその話をするのはどうかというところではありますが、今後、このような開発が行われる時に、通学区域と町内会の組織の在り方を一緒に検討していかないと、今回と同様の問題が出てしまいます。

確かに健民運動会などさまざまな問題はあると思いますが、一つの地域に住んでいれば近隣との触れ合いが多くなりますし、こうした中で区切られてしまうのは地域の方にとって心情的に辛いと思います。これは教育委員会だけの話ではありませんが、開発が行われる際には、やはりその部分から着手していくことを検討していただきたいと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

ご意見として承ります。

今後も開発が予想されますので、このようなことが起きないように整理していきたいと思います。

○出石委員長

走水小学校の児童数の推計を見る限りでは、若干ながら増えていく形となってい

ますが、その理由は何ですか。

○飯田教育政策課長（事務局）

児童数については、全地域で統一した方法で推計しているため、このような数字になっています。

例えば、現在5歳児の子どもがそのまま小学校1年生に上がるという前提で推計しており、令和10年度分まで推計しています。ただ、現状を見ると、走水小学校の児童数で考えたときに、実績としてはそこまで児童数が伸びないのではないかと思います。

○出石委員長

そうすると、走水の地域の特性として、自衛隊の官舎がある関係もあるので単純推計ではいけない部分があるということでしょうか。

○飯田教育政策課長（事務局）

その通りです。

○上田委員

さまざまな議論があつて今に至っていると思いますが、やはり一番大きいのは、児童数の問題もありますが、建物の老朽化問題が出てきます。

例えば、田浦小学校は築69年と突出していますし、その次に古いのが築63年という状況の中である程度方向性を決めていると思いますが、それ以外の学校についても、10年経てばまた同じ轍を踏むようになると思います。今回の統合も含め、このことを考えていかないといけないと思います。

当然、地域との配分の問題、人数の問題も絡みますが、やはり学校とは言え、築60年を超える建物を維持していくことは、危険性の問題、建物の補修管理の問題など、プラスになるようなものがないと思います。

皆さまにおいてもそのように考えていると思いますので、ぜひ、住んでいる方が今思うことと、10年後とではまた違ってくると思いますが、やはり丁寧に説明していった方が良くないと思います。

○出石委員長

本審議会において、今回は田浦と走水・馬堀の2地域を対象にしていますが、ただいまのご意見は大事な意見だと思います。この件は、教育委員会事務局でも承知しておいてください。

それでは、次に議事（2）教育環境整備の方策等について、事務局から説明をお

願います。

○飯田教育政策課長（事務局）

《 資料 2、3 に基づき事務局から説明 》

○出石委員長

これから意見交換を行いたいと思いますが、今の説明を聞く中では、両地域に共通する課題もあったと思います。

ただ、議論を進める上で各地域を行ったり来たりするのではなく、地域ごとに一つずつ進めていく形が良いと思いますので、まず、田浦地域における協議会委員の意見の概要と事務局の見解について意見等を頂きたいと思います。

また、教育委員会事務局による案が出ていますが、この案で進めていくということではありませんので、本日の審議会では、これまでの協議会の意見等を踏まえ、現段階での審議会での意見交換を行い、あるいはもう少し詳細についてただしていく形になると思いますので、その点も留意していただいた上で発言していただきたいと思います。もちろん、各委員の意見についてこういう方が良いといった意見も頂きたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、田浦地域についてご意見とご質問はありますか。

○櫻井委員

これまで協議会に出席させていただきましたが、協議会における主な焦点は、大きくまとめると通学路の問題、自治会の分け方、跡地利用であったと思いますが、その中でおそらく一番重要となるのが、通学路の問題です。

その他、学校を統合した場合の子どもたちのケアももちろんですが、統合した場合に通学区域の端から端へ通う子どもたちの通学路の心配も一番大きいと思いますので、その点を考えていかなければならないと思いました。

今回の田浦地域に関しては、もちろんこの場でどちらかを選ぶ訳ではないですが、やはり田浦小学校区を長浦小学校区に編入するという方が一番現実的だと思いますので、今後も協議会を進めるに当たっても、通学路に関する安全確保の提示が一番重要になると思います。

○外川委員

両地域に共通することだと思いますが、通学と通学路における安全の担保が重要だと思いますし、この部分がある程度見えてこない地域としては話が進まないだろうと思いました。

まず、現状でこのように対応するということを示すのは難しいのかもしれませんが、例えばバスの通学が自費になるのか、スクールバスになるのか、その辺りの具体案が出てくると、より現実味を帯びてくると思います。

案2、3においては、この前に学校を見ている中で、途中で子どものけんかを見ていると、実現はなかなか難しいだろうと思います。

また、小中一貫の学校にしたときに、元々あった全ての課題が解決するのかどうかという点もそうですし、今後10年を見通すという話がありましたが、この地域の小中一貫校を考えているのかという話になってきたときに、そういう話ではないのだろうなと思っています。

横須賀は小中一貫教育を行っていますので、小学校と中学校の連携を大切にしていますが、だからといって同じようなところで併設型の学校にしたときに、また別の課題が生じてくるだろうと思います。

○出石委員長

今、2人の審議会委員から通学路、特に通学距離が延びることについて意見を頂きました。これが次の走水・馬堀地域につながっていきませんが、まず田浦地域においては、協議会委員から出た公共交通機関の無料化の案と、外川委員から話のあったスクールバスに相当するものを導入する案などがあると思いますが、教育委員会事務局において、現時点で想定できるものとしてどのようなものがありますか。

○飯田教育政策課長（事務局）

協議会で提示した資料に基づいて説明します。

長浦小学校までの通学距離の中で一番遠いところとして港が丘1丁目があり、田浦大作町、そして田浦泉町が3kmと、距離がかなり長い状態になっています。

ただ、公共交通機関を使う場合に国道16号線まで出なければならず、そこまでの距離がかなりかかってしまいます。

また、スクールバスという考え方についても、田浦小学校の周辺道路がかなり狭くなっているので、学校の敷地にバスが入りづらい現状があると考えています。

ただ、協議会委員のご意見はごもっともだと思いますので、こうしたことをやるのであれば、通常は通学の補助とスクールバスの導入が一般的な施策になると思いますので、さまざまな方向を検討しながら考えていきたいと思っています。

○出石委員長

今、通学距離が3kmとありましたが、実際にどれくらいの遠距離の例があるかということと、実際の通学方法などのデータがありましたら説明をお願いします。

○飯田教育政策課長（事務局）

本件については協議会でも触れていますが、一番遠いところで大楠小学校の通学距離が約 3.9km というデータがあります。

また、市内全域で約 17,000 人の児童の中で公共交通機関を利用している人数が 182 人（学区内に限る。）であり、全体の約 1 %の児童が公共交通機関を利用しているということになります。

○出石委員長

この距離を徒歩で通うケースはあるのでしょうか。

例えば、秋谷、久留和辺りが考えられると思いますが、いかがでしょうか。

○飯田教育政策課長（事務局）

現段階でその詳細が分かる資料はありませんが、保護者が児童を学校まで送るケースも聞いていますので、通学手段は公共交通機関だけではないと思います。

○上田委員

田浦地域を見たときに、平面上は距離的に問題がないように見えますが、例えば車で横須賀から追浜まで向かうには、いくつものトンネルを通りながら国道 16 号線を走ることになります。

また、その国道 16 号線の歩道もかなり狭い状態であり、これらを一つ一つクリアしなければならない点で、田浦はかなり特異な地域であると思っています。安心と安全の点から見ても、通学するにはリスクが非常に多いところだと思います。

それについては、スクールバスなどさまざまな手当をすることで、安心で安全なところにしていくという保証は取らないといけないと思います。

そのような意味で、山の中で細い道がどのようにつながっているのかも踏まえながら結論を出していくようにしていけないと思いました。

○宮田委員

資料の 4 ページの通学区域に関する問題ですが、自治会活動と通学区域が導入されている中で、通学区域での活動と自治会活動はうまく融合できるのかどうかという点について、どのように考えていますか。

○飯田教育政策課長（事務局）

本件について、今すぐこのように対応できるという話はできませんが、さまざまな意見を聞きながら通学区域と自治会活動をどのように整理していくかについて整理していきたいと思います。

ただ、上田委員がおっしゃったように、元からあった話ではないかという話もありますので、こうしたことも考慮しつつ、地元住民の方にご了解を頂きたいと思っています。

○宮田委員

子どもたちのコミュニケーション能力と友人関係のさらなる向上に向けた体制作りについて、自治会と学校がうまく融合できていけば進められるのではないかと考えています。その点について、ぜひご検討いただきたいです。

○黒川委員

話が戻りますが、通学路の安全性の課題について2点意見があります。

1点目ですが、田浦地域は谷戸が多く、非常に特徴のある地域だと思います。このような地域の実態を踏まえながらも、今後、何十年の時間をかけてさまざまな地域が検討対象になってくると思いますので、両地域の検討については、今後、他の地域について検討する段階に入る際も同じような方針をもって解決に当たっていただける方策を考えていただきたいと思います。

2点目は、田浦地域も走水・馬堀地域も同様ですが、市だけで安全性の担保をすることは難しいと思います。協議会でもご意見が出ている通り、地域全体の安全性を高められるよう、国と県に働きかけをお願いしたいと思います。

○出石委員長

全体的な話については、次第の議事（1）でも同様のことで、将来の全市的な学校の適正配置についても、こうした通学の問題は出てくるだろうということで、地域の実態を踏まえつつも一定の方策を持った取り組みをしてほしいというご意見ということでよろしいでしょうか。

また、後半部分の国と県との関係については、いかがでしょうか。

○飯田教育政策課長（事務局）

田浦小学校区から長浦小学校に行く途中には4つのトンネルがあります。一方で、長浦小学校区に住む中学生は、そこから田浦中学校に行くので、通学の方が真逆になる点もあります。そうしたことのご心配を頂いている部分もありますが、道路は国道であり、国で整備を行う形になります。建設部門と連携を取りながら、トンネルをどのようにするというのはなかなか難しい話と思いますが、できる限りの要望をしていきたいと思っています。

○出石委員長

今の話に関連しますが、例えば、スクールバスや通学定期の支給等通学費用の無料化の対応をした場合、既存の学校では行っていないわけですので、公平性の原則を踏まえたときに、特定の者への行政サービスということになってしまいます。それが適切なことであれば良い訳ですが、一方で今後の対応として、今回の問題について対応すると、公平性の原則から、今後の適正配置に向けた検討にある程度影響してきます。

そこは、税金の使い方あるいは教育の適正化との観点でどのようにバランスを取るかを考えると非常に難しい問題ですが、そこには地域のご意見がありますし、こうしたご意見は大事ですけれども、そこを踏まえた確固たる考え方を持つ必要があると思います。これも意見として申し上げておきたいと思います。

それでは、田浦地域については以上とし、続いて走水・馬堀地域の教育環境整備の検討についてに移ります。この件について、ご意見とご質問はありますか。

○外川委員

走水地域を見ていくと、通学路の話は先ほどお話に出ていたような形だということでした。

走水の環境については、地域の間でも良いと感じている方が多かったと思いますし、教育委員会事務局の方でも走水の環境の良さを理解していて、より多くの子どもたちが教育のために活用できれば良いという見解が示されており、その点については私もその通りだと思います。ただ、走水の環境を生かしていく役割を担うのが小学校でなければいけないとは思いません。

小学校の教員の立場で言いますと、私は過去に学生ボランティアとして走水小学校に行ったことがあり、そこでさまざまなことを勉強しました。例えば、ホタルの里はとても良い活動で、現状は分かりませんが、走水小学校の5年生と6年生の総合的な学習の時間はホタルの里の活動でした。

ただ、この活動をしている理由が、ホタルの里があるからなのか、ホタルの里がやりたいからなのか、それとも子どもたちの学びにつながるからなのかが入り混じってしまっているように思います。

そうした点で考えたときに、別に小学校でなくても、ホタルの里やサツマイモ掘り等の活動はできるのではないかと思います。

それが、地域の環境につながっているとか、小学校に根付いているというご意見は分かりますが、逆に走水小学校がなくなったときに、その跡地の利用がないとなれば、走水環境の良さは生かせないということになります。

ただ、何らかの形で跡地を活用でき、子どもたちが集まれるような方法がとれるのであれば、その環境の良さは生かせるのではないかと思いますので、その点で、

もう少し具体的な方向性等が示せれば良いと思います。

○出石委員長

跡地利用について、何か案は出ているのでしょうか。

○飯田教育政策課長（事務局）

具体的な話はしていませんが、これまで本市が行ってきた統廃合は、一度分かれたものを再び合わせるような形のものでした。

ただ、今回の田浦地域と走水・馬堀地域においては、それぞれの小学校が150年間にわたって地域に存在してきました。そうしたものがなくなることへの危機感は当然ありますので、跡地利用に関しては、こうしたことも考慮しながら進めていきたいと考えています。

○上田委員

先ほどホタルの里の話がありましたが、ホタルの里は市内のいろいろなところにあります。実は、私が聞いている範囲では、学校だけではなくてその地域の人が皆でホタルの里をこれからも育てていこうというような活動になっています。例えば、学校の活動としてやっているが、小学生がパワーポイントを使って説明するときに地域の人も一緒に出て取り組んでいます。

そうした意味で言えば、学校があるからこの活動があるのではなく、地域があるから、そこに学校があって一緒に取り組んでいるのだと思います。そうであれば、学校の問題とは関係なく、この活動をこれからも生かしてもらい、まさに地域の子どもと大人も含めてコミュニケーションの場にしてもらえればと思いますし、ぜひそういう形での跡地利用を考えていただけるとありがたいです。

○出石委員長

今の2人の委員の意見と協議会委員の意見を見て、2点質問があります。

まず、協議会委員の意見から、小学校があるからこの環境があるという印象を受けるのが1点ありますので、実際に3回開催した協議会に出て感じたことについて、櫻井委員からコメントを頂きたいと思います。

そしてもう1点が、小規模校のメリットとデメリットについてです。

協議会の場では、小規模校にはデメリットもあるがメリットはあるということを相当強調されているようですが、これから子どもがさらに減っていく流れの中でどうなのだろうかと、私自身が疑問に感じていますので、このことについて市教育委員会の所見をお願いしたいと思います。

○櫻井委員

まず、地域感情が最初に出てきてしまうのが両地域に共通する部分でしたが、保護者に関しては、統合は仕方ないというところが前提にありました。

ただ、地域の方の意見として、だんだん地域感情が湧いてきて、特に走水地域では長い歴史もあって自分たちも走水小学校に通っていたということもあるので、そういう意味では、協議会の回を重ねるほどこうした話になってしまっていると思いました。

私が心配していたのは、子どもたちにとってどちらが良いのかということです。こうしたことが触れられなくなってしまっていたので、やはり子どもたちにとっては多くの友達がいて、たくさんの先生に教えてもらった方が良いと思いますし、おそらく保護者の方も同じ気持ちを持っていると思います。このことを忘れないようにした上で、先ほどの通学路の安全の担保を提示し、そこで前向きに一つずつ進めていくのが一番良いと思います。

次に通学路について、田浦地域の話になりますが、保護者をはじめ地域の方は交通事故、不審者、犯罪について心配に思っていますので、このことへのケアが必要です。

走水地域に関して言えば、通学路が海沿いにあることにより、天候次第で通学が困難になると思いますので、ここについても丁寧にケアしていければ良いと思います。

○米持学校教育部長（事務局）

今、出石委員長からご質問のありました、小学校があるからこの環境があるのか、またはこの環境があるからこうしたことができたのかという部分についてですが、私たちが協議会に出たり、学校の状況を見たりする中では、まず小学校があり、その小学校の子どもたちの活動を手伝って盛り上げたいという地域の方々の思いがあって出来上がってきた部分が大きいと思いました。

小規模校のメリットとデメリットについてですが、メリットとしては小規模校でも現に自分たちはしっかりやってきた、勉強もできるようになった、そして生徒会活動でもリーダーになったという意見を頂きました。

ただ、走水・馬堀地域の現状として、現在の走水小学校の児童の規模を見ていただくと分かる通り、協議会に参加していた方が走水小学校に在籍していた当時は、現在と同じ単学級でも、1学級に20～30人近くの児童の中で生活することができていました。男女比についても、現在の走水小学校4年生の女子が1人しかいないような状況がなかった時代でした。

ここで私たちは、現在の走水小学校の1年生が3人であり、この状況をあと5年間も続けさせていいのかということを強く訴えてきました。休み時間では、上の学

年の児童と一緒に遊んでくれることがあります。学校生活で一番長く過ごす時間は授業です。授業時間を45分として、これを6年間積み重ねていくと、単純計算で約2,000時間になりますが、本当にこの3人だけのコミュニケーションの中で過ごさせていいのかということをよく考えないといけません。

まさに宮田委員がおっしゃったように、子どもたちのコミュニケーション能力を育成する上で、いろいろな友達に会うことはもちろん、いろいろな先生からさまざまな刺激を受けていただきたいという点からも、一定程度の学校規模が必要ではないかということを伝えてきたところです。

○黒川委員

まず、走水・馬堀地域協議会委員の方々が走水小学校で大変良い生活を過ごされたことを喜ばしく思いますし、走水小学校は小規模校のメリットを生かしてきた学校であったということだと思います。

学校運営の立場から、大きく分けて3点話したいと思います。

1点目は、教科学習です。

現在の児童数では、学習指導要領と市の施策に基づく学習活動ができなくなっていることをどのように考えていけばいいのかというところだと思います。

例えば、体育の授業でサッカーやバスケットボール等のボール運動は人数がいなければできないことですし、集団と集団、そして同じ発達段階にある同学年同士の子どもたちが体を動かしながら学んでいく授業となります。音楽における合唱と合奏もそうですが、学校と教師の努力だけではどうしても難しい点ですので、この点について、保護者の方々がどのように考えているかという部分もあると思います。

それから、今はどの学校・教科においても、さまざまな意見と考え方に触れ、そこで小グループとクラスで意見を共有し、そこから知識と技能を結びつけていくという授業を行っています。これは学び方が変わってきているということですし、小規模校においてどのように対応していくのだろうかと思います。

2点目は、多様な人々と協働する力の育成です。

どの教科においても互いに児童が啓発され、学びを広げたり深めたりする中で学習が行われていますが、これが実現できるような環境で学ぶことは非常に重要なことだと考えます。

今後の子どもたちは、今よりもさらに予測のつかないような変化の激しい社会の中で生きていくわけですので、その場合に、立場、考え方、価値観の異なる人たちとどのようにしてより良いコミュニケーションをとり、たくましく生きていくのかという点において、この辺りが課題になると思います。

3点目は、学校運営です。

小学校6年間の成長を考えますと、1学年に複数の学級があることが望ましいで

す。学級編成をある程度考慮できる状況にあることは、多くの子どもにとって望ましいと思いますし、実際にさまざまな人間関係の中で苦しさを感じ、実際に、単学級ではない別の学校に転校したいとの相談を何度か受けたことがあります。

また、教員の指導力の向上という点でも複数の学級があることが望ましいです。どの学級も安定した経営を行うには、学年経営がとても重要となります。複数の教員で子どもたちを多面的に見て、指導方法を検討しながら関わっていくことで、若手の教員は先輩の教員から大変多くのことを学び、学校の総体としての指導力と教育の質の向上につながっていくのではないかと考えます。

○外川委員

私も教員ですので、今のご意見は本当にその通りだと思いました。

教員として授業する上で、例えば体育の場合で、学習指導要領に記載されているような動きをしっかりと教えられるのかということと、人数が3人と少人数であるため、学習指導要領に沿った教育をどのようにしていかないといけないかを考えるのが難しくなることが考えられます。

また、協議会において、少人数での学びの方がきめ細やかで良いという意見があると思いますが、元々少人数でしかできない学びと、ある程度適正な規模の中でも、例えばこの単元または授業については少人数でやっていこうという学びは全然違うと思います。先生によく見てもらえるからテストの点数が良いという意見がありますが、そもそもの前提が違うと思いますので、その部分を同列にして考えるのは良くないと思いますし、私も教員の立場としては、やはり多くの人数より少ない人数に対して授業をした方が落ちるだろうと思っています。ただ、だからといって3、4人の少人数でやるというのは違うだろうという考えもあります。

あと、クラス替えをする余地がないことが子どもたちにとって本当に良いのかということも感じています。

例えば、小学校1年生が3人という状況で6年間を過ごすことで、保護者も含めて人間関係が固定化されます。このまま良好な関係で行けば良いかもしれませんが、どこかで子ども同士で仲が悪くなった、あるいは保護者同士でトラブルが起きた場合でも、この状況を引っ張ったまま学年を上がらなくてはいけない辛さは、当事者でなければ分からないと思いますし、学級を分けることでお互い冷静になれるところ、人数が少なくてそれができない辛さが学校運営面でもあると思います。

また、先生の人数というのは、小さい学校では少ないです。本日の資料によれば、走水小学校の教員数は17人で、馬堀小学校の教員数は26人となっています。

ただ、例えば特別支援学級については、子どもの状態に応じて学級の内訳が決まっているので、今は特別支援学級の2名の児童に対して担任が2名ついていると思いますが、この児童が卒業したり、通常学級に入ったりした場合に学級数は減り、

そのままその学校の教員数の減につながります。こうしたときに生じる小規模校ならではの教員の大変さがあります。

確かに成績処理については、大人数に比べれば早く終わりますが、他の大規模校と中規模校と同様に、小規模校にも同じ出張があり、同じ教科の担当が行っているという話になっている訳です。

つまり、小規模校において、国語の担当も社会の担当も一人の先生という形にしていかないと、最終的には埋まらなくなってしまう。そうすると、例えばある曜日はここへ出張、ある曜日はどこかへ出張という状況が起こりうることを考えると、果たして子どもたちにきめ細やかな学びで力をつけさせられるのかどうかについて疑問に思いますし、学校運営などさまざまな面を考えても、それなりの規模が大事になると思います。

また、私は走水小学校で教育実習をしていましたが、確かに昔はもう少し児童数がいたと思いますし、この走水地域についてももう少し考えていかなければいけないなというのが、率直な感想です。

○出石委員長

教員の立場からの意見は、とても説得力がありました。

その中でもよく分かったのは、小規模校ではなく小規模授業があることが大事だということです。また、外川委員の意見の後半部分は行政と同じだと思いますし、大きな自治体と小さな自治体の違いの面で似通っていると思いました。

ただ、協議会で出ている意見は、やはり切実な意見だと思います。子どもたちの学びを主眼とすべきだということもその通りである一方で、地域のことも相当言われていました。この件については、他の委員の皆さまも言及していましたが、例えば、地域の方が一緒になって事業運営をしていくというような意見が協議会の場に出てくれば良いなと思いましたが、どちらかというと教育委員会に向けた指摘でした。そこで私は、小規模校ではあるけれども、今まで話してきたデメリットの解消に向け、地域で協力することはできないのかと思うところがあります。

○上田委員

連合町内会で一番課題となっているのは、住民の高齢化の問題と、次世代の子どもたちに対してどのようにして町内会の活動に関わってもらおうかということです。

まず、第一にあるのは地域です。私たちのまちは私たちで作り、その後ろに行政がいて、パートナーとして一緒に取り組んでいくということです。例えば、町内会の活動と今回の学校の統合について、地域がもっと皆で本気になって考え、地域でつながっていく活動を進めていかなければいけません。

ただ、私が言うとお叱りを受けてしまうかもしれませんが、私が今見ている限り

では、役所が地域のために何かをしてくれるという感覚が非常に強いです。まず地域が率先して取り組み、その中で本当に地域の方々のためになることがあれば、行政も協力してもらうようにする方向へ持っていける姿が必要になると思います。

しかし、それも簡単にいくものではありませんが、まず、町内会活動に若い世代が参画してくれない意見に関しては、私個人としては、昔あった子ども新聞に当たるものをネットで作ってもらうことを考えています。自分たちのまちの情報をニュースという形で作ることで、今何が行われ、変化していつているのかが分かってくると思います。

そういう部分で、結果としては時間がかかるかもしれませんが、自分の住むまちに対する愛着等の部分から少しずつ変わってくると思います。

○宮田委員

今、通学区域を制定している中で適正配置というとり方をされていると思いますし、これまでも小・中学校、地域単位で進めてきました。

ただ、今後少子化がさらに進む中でその地域単位の通学範囲をもう少し広域化していかないと、今後もこのような検討の場が多く出てくると思いますので、その通学区域の是正についてどのように考えているのかお伺いいたします。

○出石委員長

この点については教育委員会事務局からお答えいただと思いますが、統合というのは学校が一つになることだと思いますし、小学校区が広がることになると思いますが、さらに言いますと、今回は田浦地域と走水・馬堀地域の2地域ですが、将来も同様の話が出る可能性がありますので、現時点において学校の在り方について教育委員会で考えていることがあれば、教えてください。

○飯田教育政策課長（事務局）

今委員がおっしゃったように、人口密度が分散化されることで通学区域が広がることは想像がつく話であると思います。

ただ、適正距離についても守っていかなければいけないものだと考えていますので、その点の兼ね合いも踏まえながら整理していきたいと思います。

○出石委員長

大体の議論が出尽くしたと思います。

今回の審議会に出た意見については、今後の各地域の協議会でフィードバックされると思いますが、ここで整理したいと思います。

まずはじめに、今回の2地域に限らず、今後も全市的な検討及び整理を行ってい

く必要があるということです。加えて、公平性の原則等も踏まえた上で全市的な対応が必要であるということが大きな意味でありました。

一方で、今回の２地域に共通する課題は通学路の安全と子どもの安全の確保についてでした。特に田浦地域には、国道 16 号線及びトンネルの問題と歩道が狭い問題があり、走水・馬堀地域には海岸沿いの道路を通ることによる安全、災害等の関係も含めた問題がありました。これらについて多くの委員からご指摘があり、教育委員会事務局においてもさまざまな検討をしていくというコメントを頂きました。

また、田浦地域における自治会活動と学校活動との関係に係る懸念も論点として挙がっていました。

それから、走水・馬堀地域については、走水の歴史的・自然的な環境が直接走水小学校とどれだけ関連するのかということと、小学校の活動と地域の活動が同等だとまでは行かないのではないかとということです。走水小学校については、跡地の利用等で子どもと大人のコミュニケーションの場とし、走水地域の環境を生かす方法はあるのではないかとのご意見があり、特に子どもたちの学びを主眼に置くという検討が必要ではないかとのご意見がありました。

それでは、今の内容を地域別協議会で報告していただき、その場で議論を進めていただきたいと思います。また、今後も各地域の協議会で議論した結果を本審議会に報告し、これを踏まえた議論を深めていきたいと思います。

それでは、議事が終了となりますので、以上をもちまして第２回横須賀市立小中学校適正配置審議会を終了することとしまして、進行を事務局に戻します。

○飯田教育政策課長（事務局）

ありがとうございました。

事務局から連絡事項についてご説明させていただきます。会議録ですが、確認用の会議録を作成しましたら、各委員に送らせていただきます。内容を確認いただき、修正等があれば送付文に記載の期日までに事務局へご連絡くださいますようお願いいたします。なお、修正後の会議録は、市役所 1 階の市政情報コーナーおよびホームページで公開します。

次の開催日は未定です。地域別小中学校教育環境整備検討協議会の進捗状況に応じて開催しますので、その際は改めてご連絡します。

○出石委員長

次の地域別協議会の日程を教えてください。

○飯田教育政策課長（事務局）

走水・馬堀地域については翌年 1 月 23 日（月）大津コミュニティセンターで、田

浦地域については同月 31 日（火）長浦コミュニティセンターで行われます。時間は両地域とも 19 時開始を予定しています。

委員の皆さま、ありがとうございました。

以上で、令和 4 年度第 2 回横須賀市立小中学校適正配置審議会を終了します。

以上